

日本史研究推進委員会

共同研究 「神奈川における交易・交流」

モノを活用した日本史教材」経過報告

川崎高校 白川 重敏

日本史研究推進委員会の一七年度の研究活動は、三年目となる共同研究テーマ「神奈川における交易・交流」神奈川をめぐるモノを活用とした日本史教材」に基づいて実施した。この研究活動は、観点別評価が実施されゆく中、地域にある史料を使って、それをどのように教材化し、授業に生かすことが出来るかを研究課題としている。委員会は毎月一回、八月と二月を除いて、委員の勤務校や県内施設を使って月例会を開き、各委員がレポートを持ち寄り、その成果を秋と春の研究発表会で発表してきた。また恒例となった世界史研究推進委員会との合同委員会も実施し、活発な討議がなされた。また七月には全歴研東京大会に日本史から岩崎孝和（元石川高校）が参加し、「小島日記」を使った水準の高い発表を披露した。八月には恒例となった夏季巡検も実施された。

【月例会】

十七年度は次の会場で月例会を実施した。四月（県川崎）・五月（元石川）・六月（県川崎・日世合同）・七月（埋蔵文化財センター・横浜開港資料館）・九月（茅ヶ崎）・一〇月（湘南台）・十一月（県歴博）・十二月（伊勢原）・一月（六ツ川）・三月（七里ガ浜）

【研究発表】

○秋季研究発表会（一〇月一九日）神奈川県民センター

「近世浦賀の干鯛問題と公共性」 林 三郎（茅ヶ崎高校）

「相模国における織豊系城郭―石垣山―夜城の築城と意義」

武井 勝（湘南台高校）

○春季研究発表会（三月七日）神奈川県民センター

「朝鮮王朝初期における日朝関係史上の朝鮮官人を追って」

中田 稔（七里ガ浜高校）

「丹沢の行者道を歩く」

城川 隆生（元海老名高校教諭・修験道研究者）

○全国歴史教育研究協議会東京大会（七月二七日）

（江戸東京博物館）

「地域史料（古文書）を活用しての授業―幕末名主日記に

見られる社会情勢」

岩崎 孝和（元石川高校）

【夏季巡検】

今年八月二六日に、坂井久能（神奈川総合高校）の尽力で在日米陸軍キャンプ座間及び相模総合補給廠の旧陸軍施設見学を実施した。午前は在日米陸軍キャンプ座間渉外担当司令官の挨拶を受けたあと渉外担当官の案内でキャンプ座間内の各旧軍施設を見学し、将校クラブで昼食。午後は相模総合補給廠に移動し、同補給廠第35補給業務大隊渉外担当官の案内で旧陸軍相模造兵廠施設を見学、詳細に解説してもらうことができ、また旧陸軍施設のいくつかはそのま使用されている状況を知ることが出来た。次年度も魅力ある巡検を企画する予定である。

最後になったが、月例会の会場をご提供いただいた各高等学校、横浜開港資料館・県立歴史博物館に感謝申し上げますとともに、今後ともご理解・ご協力をお願いする次第である。